

暮らしやすい社会になれば人々は幸せになる？

人間科学部 コミュニケーション学科 三年 金塚妃菜
ポーランド・グダニスク大学

1. テーマ設定の理由と調査内容

日本の労働環境は昔に比べて、働き方改革の効果もあり、少しずつ改善されつつありますが、それでも日本はまだ世界の中でも「働きすぎ」の国と言われています。

2019年度の「世界幸福度ランキング」において、日本の順位は58位。経済や住居環境において豊かな先進国にも関わらずここまで順位が低い理由の1つとして、「労働環境」が関係していると考えました。

私の身近な人たちで、仕事を終えて帰ってくる時間がとても遅い人がいます。その方達には、家族も子供もいます。その子供たちはもっと両親との時間を過ごしたいと思っているはずですが、日本では、残業することは普通のことですが、日本を出てみれば残業は普通のことではないように思えます。自分のニーズに合わせて多様な働き方・生き方ができれば、仕事もプライベートも充実させることができるのではないかと考えました。

SDGsの中で、「3. すべての人に健康と福祉を」と「8. 働きがいも経済成長も」という目標に視点を当てて調べました。その中でも、育児休暇の取得のしやすさ、共働き世帯の割合、就業時間、有給休暇の取得のしやすさ、帰宅後の時間の使い方について、ポーランドと日本で比べました。

2. 派遣国で調査や観察したこと

ポーランドに着いてからの最初の1か月は、現地の人の働き方や、働いている時の雰囲気などを観察することの他に、夫婦間の子育てに対する意識を生活の中で感じるようにしました。2ヶ月目は、実際に働いている人にインタビューするという目標で、自分でインタビュー内容を考え、まず、自分の両親に電話でインタビューしました。インタビュー内容としては、1. 育児支援（子育て時、どんな支援があったか）2. 共働きかちがうか（良いこと、悪いこと）3. 就業時間（長い？短い？残業は？）4. 有給休暇（取りやすい？どのくらい使ってる？）5. 帰宅後の時間の使い方（帰宅したら何してる？）6. 働き方（直したいこと、望み）7. 生活（幸せ？充実した生活？）といったことです。両親にインタビューしてみて、同じ点、異なる点があり、夫婦間でも違いがあると感じました。今後、いとこの両親や、働いている友達などにもインタビューしていく予定です。また、グダニスク大学の教員や、できたら、ポーランド人の友達の両親などにもインタビューできたらと考えています。

現地に着いて、人々の働く姿や育児に対する姿勢などを観察し、感じたことからインタビュー内容を考え、先月は自分の両親にインタビューし、3か月目は、実際に現地の方々にインタビューしました。働き方に関しては、会社や人によって就業時間は違うが、基本的に残業はなく、帰宅後も家族との時間や自分の時間を確保して過ごしていると分かりました。また、ポーランドでの最低限の福利厚生提供義務は、年金、社会保険、労働医療、育児休暇、産休と父親の育児休暇、20日以上有給休暇、13日の祝日休暇、有給病欠休暇 182 1つの病気の日数、家族の結婚式などのライフイベントのための休暇、忌引休暇だと分かりました。さらに、インタビューした方々全員が今、充実した生活で、幸せだと回答しました。育児支援に関しては、日

本と同様で条件付きの補助金があるそうです。また、ポーランド人の家庭の教育方法は一般的な日本の教育方法とは違うと実感しました。日本では、子供達は親の言うことに従い、決定権はほとんど親が持っているが、ポーランド人では、年齢関係なく、個を大切に、強制されることなく自由に育てられていると聞き、素晴らしい子育てだと思いました。働き方や子育てに対する姿勢など日本とは異なる点がいくつかあり、調査していてとても面白いと感じました。今後も何か疑問に思ったことや気づいたことなどを調べていきたいと思いました。

4、5ヶ月目は、現地の人の働き方などを調べていましたが、ポーランド人から見る日本の働き方についてどう思っているか気になったので、友達に聞いたり、調べ足りないことを再度調べるということをしました。

3. 2の結果、考えたこと、日本との比較など

働き方については、お店や学内のオフィスによっては16時頃に閉まってしまったり、日曜日には、ほとんどのお店が開いていないので、場所やお店によりますが、働きすぎや残業が日本よりも圧倒的に少ないなと感じました。また、働いている時の雰囲気は、仕事でも携帯をいじっていたり、とても自由な感じがしました。日本ではなかなかない光景なので、とても驚いたと共に、その自由さが良いのかなとも感じました。また、スーパーでは、男性の比率や夫婦で買い物に来ている比率が高く、日本では、主婦や仕事終わりの女性が買い物をしているイメージですが、ポーランドでは、男性も女性も同じくらい買い物をしているんだと思いました。早く仕事が終われば、時間を有効活用できますし、家族や夫婦での時間を作れるのかなと思いました。夫婦の子育てに対する意識は、日本より、街中を歩いていて、男の人がベビーカーを押している割合も高いし、子供と出かけていたり、公園などに夫婦で遊びに来ていたり、母親だけでなく、夫婦で対等に子育てをしているなと感じました。母親だけに負担がかからず、夫婦で子育てすることはとても良いことだと感じました。

また、生活していて感じたことは、学校の教員で少しでも体調が悪かったり、使用があると授業がなくなるということです。日本では、なかなか休みづらい雰囲気があると思いますが、自分のことも優先しているということは非常に良く、また大学内でも働きやすい環境が整っているんだなと感じました。なので、日本でももっとプライベートを優先できるような環境を整えれば働きやすくなるのかなと思いました。

ポーランド人の友達に、ポーランドから見る日本の働き方について聞いた際に、みんな口をそろえて、働きすぎだ！ワークライフバランスをもっと推進すべきだと言っていました。日本で働きたいと思っている友達もいましたが、日本で働いたら疲れ果てそうだし自分の時間が作れないそうとも言っていました。日本でも働く場所によると思いますが、ポーランド人から見た日本の働き方ってこうなんだと感ずることができました。日本の働き方、ポーランドの働き方で、良い所と悪い所がお互いにあると思います。お互いの良い所を取り入れれば働き方が改善し、日本人も充実した生活が送れると思います。また、日本で働きたいと思ってくれる人がもっと増えると思います。

また、子育て支援や子育ての仕方なども違いがあり、ポーランドでは親と子供との距離が近く、子供にも決定権があり、なんでもやらせてみるといった考え方が多いと思います。日本でももっと子供に決定権を与えたり、親が子供に寄り添ってあげたらもっと幸せになるのではないかと感じました。

実際に現地を見て、現地の人に聞かないと分からなかったことが知れたのでとてもいい機会になりました。

4. 3から、茨城（日本）に提案できること

提案できることは、3つあります。

1つ目は、労働時間の制限をすることです。

周りに合わせて帰宅準備をしたり、1番にオフィスを出るのが自分にならないよう様子をうかがったりするような日本独特の文化があると思います。そのような文化をなくさなければいけないと思います。会社が時間外労働をしないあるいは、みんなで定時に帰るなど、より強制力のある規則を作るべきだと思います。（残業も必要に応じてすればいいが、残業時間も制限する。）

2つ目は、有給休暇の完全消費です。

日本では、有給休暇の取得率が他の国より圧倒的に低いと思います。やはり、「取りづらい雰囲気」があるのではないかと考えました。自分が休んだら、他の人に迷惑をかけると考えたり、周りの環境がとても関係していると思います。なので、年に何日は「必ず」有給休暇を取得するといった規則を会社で作るべきだと思います。そうすれば、強制的な規則なので、誰でも取得することができるはずです。

3つ目は、自分のワークスタイルを持つことです。

現代では、コロナの影響もあり、会社に出社しなくてもできる仕事や職種が増えてきました。従来の働き方に囚われるのではなく、仕事や働き方を見直し、常にアップデートする意識が大切だと思います。例えば、育児休暇で休んでいても、その人に合わせてリモートワークをしたりすることです。それが可能になれば、旦那さんも育児休暇でリモートワークをし、夫婦で子育てをすることもできると思います。

時代の変化に合わせて柔軟に変化していかなければならないのは、「ワークスタイル」に関しても同じです。人々はリラックスをして、より自分の時間を過ごすべきだと思います。そのため、その人に合わせたワークスタイルを作ったり、会社、日本でもっと規則を改善し、働きやすい環境を作ることができれば、もっと幸せに暮らすことができると思います。